

正しく動き、美しくつながり、強く創り出す「未来を生き抜く力」を育成する学校



「たい」のあふれる時津小



令和5年4月10日（月） 発行人：校長 森内 秀学

1年間、どうぞよろしくお願ひいたします

初めまして。校長の森内 ^{もりうち} 秀学 ^{ひでたか}と申します。教職30年のうち、時津町内に、足掛け15年お世話になっています。今度は、創立153年という歴史ある学校の校長として、子どもたち一人一人の確かな成長を実現していきたいと考えています。保護者の皆様、地域の皆様、どうぞよろしくお願ひします。

さて、創刊号となる今回は、私の学校経営に対する思いを記します。

1 タイトルに込めた思い

「さい」よりも「たい」のあふれる 学校に

これは、校長室入り口横の掲示板に掲げた言葉です。「さい」とは、「〇〇しなさい」と指示をするときの言葉の語尾。一方、「たい」は、「〇〇したい」という意欲を表すときの言葉の語尾です。私は、生きる原動力は、意欲だと思っています。ですから、人から指示されて動くのではなく、自分から意思をもって取り組む子どもを育てたいのです。

そこでタイトルを、『たい』のあふれる時津小にしました。教師も保護者も地域の方々も、みんなで子どもの「たい」を引き出し、育ててほしいと思っています。

そのためには、子どもに判断させ、行動に責任をもたせ、失敗しても叱らず、一緒に原因を考え、再びチャレンジさせる、という行為を繰り返す必要があります。

根気のいる取組になりますが、ご協力のほど、よろしくお願ひします。

2 意欲を基盤に育てるべき力とは…

6年生は、8年経つと20歳。2030年です。ちょうど社会に出ていくタイミングです。その時に身に付けておかなければならない力は何か。それは、「たい」、つまり、意欲を基盤にした「自律性」と「協調性」と「創造性」です。①自己管理ができる力 ②人と協力して物事に取り組む力 ③新しいことを生み出す創造的な力。この3つは、AIが席卷する未来を生き抜くために欠かせない力だそうです。

そこで、この3つの力を、校訓「強く 正しく 美しく」と組み合わせ、学校教育目標を次のように設定しました。

「正しく動き、美しくつながり、強く創り出す『未来を生き抜く力』を身に付けた児童を育成する。」

自律した行動力、相手を思いやりながら協働する協調性、踏み出す勇気が生み出す創造性…。どれも大事です。こうした力を育むため、一致団結して取り組んでまいります。